時事新報

相撲の所感

東京本場の相撲は去る十九日より例の如く兩國回向院に於て興行、晴天十日の間その技を演ずる筈なり右に付き府下の相撲好の人々はろの最負の力士の勝敗に關心し日々場に到りて見物するは勿論、茶話酒宴の席上總て相撲勝負の談に及ばざるはなし甲はその最負の力士の必勝を期し乙は其敵手の技倆を以て當場第一となし其最負々々の力士を賞賛し互に相爭ふて相下らず終には之を明日實場の賭に訴ふるなど共有樣を形容すれば凡そ之の十日間は滿都の人士いやしくも相撲の心あるものは恰も一種の狂疾に罹りたりと評するも不可なきが如し今回時事新報社に於て相撲の全勝者へ賞品として銀盃を授與せんとするの挙も亦是れ都下流行の狂を死かれざるものか然るに其興行終るの後に至ればさしも滿都の心を動かしたる相撲談も全く其迹を收め最負爭ひの如き亦唯昨宵の夢にして敵も味方も互に一笑に附するのみ又力士の番附を見るに其昇降斷除常ならずして數年間同一の地位を守るものとては甚だ少なく或は病衰等の事故を以て退く者あり或は新進少壯の力士が俄に頭角を現はすあり一進一退優勝劣敗の事實は目前に行はれて何等の會釋もなく又情實もなく全面の風景甚だ淡泊にして無造作なりと云ふ可し故に最負の屬する所も常ならずして去年甲に勝したる熱心も今年は漸く冷却して乙に移り、從前名も知れざりし田舍相撲にても今度の本場にて忽ち人氣澤山と爲るものあり或は最負の羅り固辭したる最上は力士の病衰にも拘はらず其次第に墮落するを悲しむ者もある可しと雖も優勝劣敗の觀面に行はるゝ社會のことなれば到底その最負の永續す可きにあらず人氣の冷熱毫も怨恨の媒介たるにあらざるにして其間に無限の興味あるは即是れ相撲の妙處なり

夫れと是れとは事變れども明年は國會開設の都合にて憲法も近日發布になる可しと云へ右に付き世上の政治に志ある人々は夫々準備に忙はしき樣子にて、或は自から議員の當撰を心意し又は政黨の募集に從事するなど甚だ多事なる其中に愈々開設の曉に至る右の政治家が志を得て議場に出席し雄辯滔々の技倆を試るは猶ほ當場の力士が回向院の本場に於て技を角するが如きことならん又世の政黨政友あるものが銘々信ずる所の政治樣を最負して其勝敗に關心するは猶ほ都人士が相撲を最負すると一般なるにあらんか然り而して都人士の相撲を最負するや前にも云へる如く其開場間の有樣を見れば恰も一時の狂を病むものゝ如く熱心の極度に達すれども場終れば其熱忽ち醒めて復た狂態を留めず又その間ゆる最負あるもの昨夫は甲を最負して今年は乙に移るなど轉變常に定らざるの間に互に不快の感を起すことなく其外形內情共に淡泊なれども彼の政黨政友の挙動は果して斯く淡泊なるにあらんかを得べきや否や政治は一國利害の關する所にして相撲は一箇人の快樂に過ぎざれば事國に關する所にして相撲は一箇人の快樂に過ぎざれば事國に關する所にして相撲は一箇人の快樂に過ぎざれば事國に